二〇一七年度　大阪府公立高校入試問題（B問題）

五〇分　九〇点

（注）　答えの字数が指定されている問題は、句読点や「　」などの符号も一字に数えなさい。

一

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

歌の材料になるものは天地間に限りもないのです。私たち人間の姿・言動、人間を取り巻いている自然物・社会現象、人間の心に㋐絶えず生滅（しょうめつ）し続けている感情、こういうものはいっさい歌の材料になるのであって、昔のように、「これが歌の材料、それは材料にしてはいけない」などという制限は少しもありません。現代の新しい歌はそれだけ進歩してきましたし、それを作ろうという私たちは、別にめんどうな予備知識などなしに、気楽に自由に考えることができるようになりました。

ですが、一つだけ大切なことがあります。歌の材料は何でもいいのですが、その事物は私たちの心を動かしたもの、心に触れて何かを感じさせたもの、感動・感激を与えてくれたものでなくてはならないということです。

このような物だけが、歌の材料となります。ですから、天地間にある物は限りないわけですけれども、それが片はしから皆さんに感動を与えるというものではないでしょう。また人々によっても異なるでしょう。ここに一つのはっきりした限界があるのです。

初心のうちは、目で見た物をそのとおり写生するように述べることで、ああ、歌はこういうものだなあ、と思うことがあるでしょう。しかし、写生することはいいのですけれども、肝心な心のほうがお留守になっていては本末転倒ということになります。皆さんがおもしろいと感じたその心の状態を、一番の土台にすべきです。その心があればこそ、皆さんをおもしろいと感動させた事物が有意義なものとなり、歌の材料となるのです。目に入って来たものを初めから歌の材料と思っては間違うのです。

ただし、ここで感動というのは少し大げさな語感があって、圧迫を感じるかもしれませんが、皆さんの心に感じたことは、たとえどⅠんなに小さなことでも、すぐ消えてなくなりそうなはかないものでもいいのです。感動というのは、時には大きな感激もあるでしょうが、だいたいは日常生活の中で心にぴんとはっきり感じたもの、皆さんの心を感じ動かさせたものと理解しておけばいいと思います。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ひさかたの天の香具山このゆふべ霞たなびく春立つらしも　――Ⓐ　『柿本人麿歌集』

この歌の作者は、常日ごろ大和の国の天の香具山の近くに住んでいて、朝夕山を眺めている人だったのですが、ある日の夕暮、山に霞のたなびいているのを見とめたのです。それと同時に、待っていた春がいよいよ来たのだなと、心のうちで感動したのです。

この歌の中心は、「このゆふべ霞たなびく」という自然現象と、それに感動した作者の心とにあります。したがって歌の材料という点からいうと、そういう山の姿だったのです。「このゆふべ霞たなびく」という山の姿がありのままに写生されていますが、大切なのは、ただ目に見ただけのものではなく、「春立つらしも」、すなわちいよいよ春になるらしいという喜びの感動と、一つに融け合ってしまっているために、立派な材料となる資格を持っているのです。これはすぐれた歌ですから、いろいろと言わねばならないこともあるのですが、今はただ材料ということについてだけ申すにとどめておきましょう。

箱根路をわれ越え来れば伊豆の海や沖の小島に波の寄る見ゆ　――Ⓑ　源実朝

この歌の作者は、これを作ったときのことを文章で説明しているのですが、それによるとこうです。ある日鎌倉のほうから箱根の山へ登ってゆくと、反対側の熱海のほうが眼下に開けたのです。何という名前の海かと供の者に尋ねたところ、伊豆の海と答えたので、この歌を作ったというのです。実朝は鎌倉幕府の第三代将軍で、このときまだ二十二歳以前の年齢であったことが知られています。

この歌は実朝が説明しているとおり、旅行に出て、初めて伊豆の海の名を知り、また熱海の沖にある初島も初めて見て、㋑新鮮な感動を受けたのです。材料は「沖の小島に波の寄る見ゆ」という自然の姿ですが、山を越えて来て、眼下に青々とした海を見下ろし、その広々とした海の中に白波の寄せる小島を発見したときの感動が、この歌の材料となった自然の姿と一つに融け合っているのが注意されなくてはなりません。

こういう感動は、先の『人麿歌集』の歌の場合と同じように、自然に接したときの第一印象なのです。感動というものは、いつまでも続いているものではありません。鋭く胸をついてくるけれども、やがて消えてしまうのです。それは自然を目で見た㋒瞬間に起こったもので、自然を観察し、考えてから感動するというようなものではありませんので、感動と第一印象というものは、いつも密接に結びつくのです。

（窪田章一郎「短歌入門」より）

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（注）大和の国＝旧国名。現在の奈良県にあたる。

1　本文中の次の漢字の読み方を書きなさい。

㋐ 絶えず　［えず］

㋑ 新鮮　［　　］

㋒ 瞬間　［　　］

2　本文中で筆者は、ある事物が歌の材料となるための一番の土台にすべきものは何であると述べているか。その内容についてまとめた次の文の［　］に入れるのに最も適しているひとつづきのことばを、本文中から**十五字**で抜き出しなさい。

ある事物が歌の材料となるための一番の土台にすべきものは、私たちが［　］である。

［　　　　　　　　　　　　　　　］（15字）

3　次のうち、本文中のⅠで示した箇所の、本文中での役割として最も適しているものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア　具体例を付け加えて筆者の意見を支えている。

イ　新しい意見を述べて話題を別のものに切り替えている。

ウ　直前の話題についての読者の反応を予想して説明を補足している。

エ　直前の主張に反する事実をとりあげて対立する意見を述べている。

［ア　イ　ウ　エ］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

4　本文中のⒶで示した歌とⒷで示した歌とについて、本文中で筆者が述べている内容を次のようにまとめた。［a］、［b］に入る内容を、それぞれ本文中のことばを使って書きなさい。ただし、［a］は三十字程度、［b］は三十五字程度で書くこと。

Ⓐの歌では、ある日の夕暮に［a］が、Ⓑの歌では、初めて［b］が、それぞれ歌の中心となっており、この二つの歌では、自然と感動が密接に結びついている。

a

b

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

文義（文の意味）の心得がたきところを、はじめより一々に解せむとしては、①とどこほりてすすまぬことあれば、聞こえぬ（わからない）ところは、まづそのままにて過ごすぞよき。殊に（とりわけ）世に難き（かた）事にしたるふしぶしをまづしらむとするは、いといとわろし。ただよく聞こえたる所に心をつけて、深く味はふべき也（なり）。こはよく聞こえたる事也と思ひて、②なほざりに見過ごせば、すべてこまかなる意味もしられず、又おほく心得たがひの有りて、いつまでも③其（そ）の誤りをえさとらざる事有る也。

1　①とどこほりてを現代かなづかいになおして、すべてひらがなで書きなさい。

2　②なほざりにの本文中での意味として次のうち最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア　あきらめて　　イ　いい加減に　　ウ　思い切って　　エ　ていねいに

ア　イ　ウ　エ

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

3　③其の誤りをえさとらざる事とあるが、これはどのようなことを表しているか。次のうち、最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア　文章の意味についての思い違いに気づくことができないこと。
イ　文章の内容の一部が間違っていて共感することができないこと。
ウ　文章の各部分における表現の違いを指摘することができないこと。
エ　文章の評判と印象とが食い違っていて納得することができないこと。

ア　イ　ウ　エ

4　次のうち、本文中で筆者がすすめる文章の読み方として最も適しているものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア　はじめの部分は、内容を味わいながら特にていねいに読む。
イ　難しいとされる部分は、細かな意味をよく考えながら読む。
ウ　内容のやさしい部分は、すばやく意味をとらえて読み進める。
エ　意味のわからない部分は、最初はそのままにして読み進める。

ア　イ　ウ　エ

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

三

次の(1)～(6)の文中の傍線を付けたカタカナを漢字になおし、解答欄の枠内に書きなさい。ただし、楷書（かいしょ）で、大きくていねいに書くこと。

(1) 太陽の光をアびる。

(2) 相手の実力をミトめる。

(3) 寒さがキビしくなる。

(4) 次に会うヤクソクをする。

(5) 弟のかぜが治るまでカンビョウする。

(6) 提案についてサンピを問う。

(1) □びる　(2) □める　(3) □しく　(4) □□　(5) □□　(6) □□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

四

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

辺りは春めいてきて、公園や遊歩道沿いの白梅や紅梅はもう盛りを過ぎた。わが家の和室の前にも一本の梅の木があって、これは今ちょうど満開だ。

この梅は一昨年の今ごろ植えたものだ。以前その場所には白いハナミズキがあって、五月になるとそれはそれはきれいに咲いて、遠くからでも人目を惹（ひ）いたし、僕も内心自慢に思っていた。それが三年前の強風で倒れそうになり、人に頼んで竹でしっかり支えてもらったが、根がやられたのだろう、ついに枯れてしまった。その後釜（あとがま）だからと、千鶴子（ちづこ）と植木屋に出向いて①吟味して選んで植えたのが、この豊後梅（ぶんごうめ）なのだ。

こんなことがあって梅の花に関心をもつようになったのか、②今年はあちこちの梅をじっと眺めることが多かった。

実をいうと、僕はこれまで梅の花にはあまり関心がなかった。むしろ桜の方がきれいだと思っていたし、好きだった。だから、何年も前のこと、誘われて熱海（あたみ）の梅園に行ったときも、これといって感興はわかなかった。地元の偕楽園（かいらくえん）の梅が有名で、毎年大勢の客で賑（にぎ）わうことは知っていても、行きたいと思ったことは一度もなかった。

でも、今は違う。梅も心から美しいと思うし、好きになった。

この心境の変化のもとはといえば、ちょっとした「発見」である。

桜は近くで見てもきれいだが、なんといっても、一斉に咲き揃（そろ）う直前の一本の大木全体を、少し離れたところから見上げるのが一番よい。それも、よく晴れた青空を背景にしていて、しかも視野の一画に松かなにかの常緑樹があれば最高。「艶（あで）やかな圧巻」という表現がぴったりの美しさである。桜は全体の美である。

僕はこれまで、梅に対しても同じ見方をしていたように思う。少し離れたところから梅の木全体を眺めると、僕の眼（め）には決して美しいとは映らない。むしろ薄汚れていて、貧弱でさえある。こんな花をわざわざ遠くまで見にいく人の気が知れない、などと思ってしまうほどだった。

しかし自分の庭に梅を植えてからは、季節が近づくとその開花が気になって、固い蕾（つぼみ）のうちからまだかまだかと催促するような思い

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

で、目のすぐ前まで近寄ってはじっと見つめるようにしてきた。そして、少しずつ膨らんできて、ついに最初のいくつかが開いたときには、心から美しいと思い、感動した。これまでにない新しい感動であった。

桜は花の量が圧倒的に多いから、近くても遠くてもきれいな桜色に見える。梅は桜ほど花の量が多くないから、離れて見ると、黒っぽい幹や枝とクリームがかった花がちぐはぐないまぜになって、全体としては地味で薄汚れた感じになってしまう。

ところが梅を近寄って見ると、一つひとつの花が整った輪郭とともに目に入って、清楚（せいそ）な美しさを見せてくれる。それに幹や太い枝から直角に分かれた細い枝々が、あたりに突きささるように鋭く真っ直（す）ぐに伸びて、存在感を顕（あら）わにしている。花と枝はそれぞれが対等に自己主張して、明確にコントラストする。それでいて渾然（こんぜん）と一体となって、しっとりとしたバランスを醸（かも）し出しているのには感じ入る。

開いた花には、頂上に登りつめたときの晴れやかな表情がある。開花寸前の蕾は、もう咲いた隣の花を横目に、懸命に開花を急いでいるかのようである。まだ固い蕾は、おれの番はまだ先さ、と妙にすましているようなところがある。一つひとつの花や蕾にそれぞれの表情があって面白い。

それに、梅には桜にない香りもある。近寄ると、淡い香りが花と一体となって、美の次元を一層深いものにしているように思われる。梅は近くで見るべき花なのだ。「個の美」とでもいえばよいだろうか。

全体の美と個の美。それによって見方も違う。これが僕のちょっとした「発見」である。

（池上晴夫「木の時間」より）

（注）　千鶴子＝筆者の妻の名。
偕楽園＝茨城県水戸（みと）市にある公園。梅の名所として知られる。
ないまぜ＝いろいろなものが一つにまざりあっていること。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

1　①吟味してとあるが、次のうち、このことばの本文中での意味として最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア　思わずうなって　イ　念入りに調べて　ウ　すばやく確かめて　エ　大まかに見積もって

ア　イ　ウ　エ

2　②今年はあちこちの梅をじっと眺めることが多かったの部分から、「今年は」が修飾している**一文節**を抜き出しなさい。

3　次のうち、本文中で述べられていることがらと内容の合うものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア　筆者は、自宅の庭にハナミズキを植えていたが、枯れてしまったので、かわりになるものを人に頼んで選んでもらった。

イ　筆者は、桜の花だけでなく梅の花もきれいだと思うようになってから、初めて熱海の梅園を訪れ、美しい梅の花を楽しんだ。

ウ　筆者は、以前は梅の花にあまり関心がなかったが、自宅の庭に梅を植えてからは、その梅の開花を心待ちにするようになった。

エ　筆者は、偕楽園が毎年大勢の客で賑わうことは知っていたが、自宅の和室から眺める梅に満足していたので、行きたいとは思わなかった。

ア　イ　ウ　エ

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

4　本文中で筆者は、どのようにすることで、「艶やかな圧巻」と表現するのにふさわしい桜の美しさを味わうことができると述べているか。その内容についてまとめた次の文の［　］に入る内容を、本文中のことばを使って**四十五字程度**で書きなさい。

よく晴れた青空を背景にして、［　］ことで、「艶やかな圧巻」と表現するのにふさわしい桜の美しさを味わうことができる。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

5　梅を近くから眺めるときに筆者が感じていることについて、本文中で述べられている内容を次のようにまとめた。[a]、[b]に入れるのに最も適しているひとつづきのことばを、それぞれ本文中から抜き出しなさい。ただし、[a]は**十三字**、[b]は**十一字**で抜き出すこと。また、[c]に入る内容を、本文中のことばを使って**十字程度**で書きなさい。

・整った輪郭をもつ花が[a]うえに、真っ直ぐに伸びる細い枝々が[b]。そして、花と枝が対照をなしつつ渾然と一体となって、しっとりとしたバランスを醸し出していることに感心する。
・開花の度合いに応じて、花や蕾にそれぞれの表情があることに興味をひかれる。
・花と[c]ことによって、美の次元の深まりが感じられる。

a □□□□□□□□□□□□□

b □□□□□□□□□□□

c □□□□□□□□□□□□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

6　本文中で述べられているように、同じものごとであっても、全体をとらえたときと、部分をとらえたときとでは、印象が異なることがあります。このことをふまえて、あなたなら、ものごとを理解しようとするときに、どのようなことを心がけたいと考えますか。次の条件1～3にしたがって、あなたの考えをあとの原稿用紙に**三百字以内**で書きなさい。

条件1　最初に、「桜」や「梅」以外で、ものごとの例を一つあげること。

条件2　次に、条件1であげた例について、全体をとらえたときと、部分をとらえたときとで、どのように印象が異なるのかを書くこと。

条件3　さらに、あなたがものごとを理解しようとするときに、どのようなことを心がけたいのかを書くこと。

100

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

300 200

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

二〇一七年度　大阪府公立高校入試問題（B問題）

一

解答

1、㋐た（えず）　㋑しんせん　㋒しゅんかん　2、おもしろいと感じたその心の状態　3、ウ　4、a、山に霞がたなびいている姿を見て、春が来たことに感動したこと（29字）　b、伊豆の海の名を知り、海の中に白波の寄せる小島を発見して感動したこと（33字）
（それぞれ同意可）

解説

2、「歌の材料は何でもいい」としながら、「その事物は私たちの心を動かしたもの…感動・感激を与えてくれたものでなくてはならない」という考えを示した上で、「皆さんが…一番の土台にすべきです」と述べている。

3、「ただし…」という形で、「皆さん」が「圧迫を感じるかも」しれないと考え、説明を加えている。

4、それぞれの歌の中心になっている「自然」と「感動」をおさえる。Ⓐの歌の中心は、「『このゆふべ霞たなびく』という自然現象」と、それを見て「いよいよ春になるらしいという喜びの感動」である。Ⓑの歌では、初めて「伊豆の海の名」を知り、また熱海の「広々とした海の中に白波の寄せる小島を発見したときの感動」が描かれている。

二

解答

1、とどこおりて　2、イ　3、ア　4、エ

解説

1、語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」にする。

2、「こはよく聞こえたる事也」と思って「深く味はふ」ことなく見過ごすということを意味している。

3、「え〜ざる」は、「〜できない」という不可能の意味。「其の誤り」は、「文義」の「心得たがひ」を指す。「えさとらざる」は、それ

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

を知ることができないことを表している。

4、「文義の心得がたきところ」は「まづそのままにて過ごすぞよき」と述べている。

口語訳

文の意味のわかりにくいところを、はじめからひとつひとつ解き明かそうとすると、途中でつかえて進まないことがあるので、わからないところは、ともかくそのままにして先に進むのがよい。

とりわけ、難解ないろいろな点をまず知ろうとするのは、たいへんよくない。ただよく意味を知っているところに注意して、深く味わうべきである。これはよく知っていることだと思って、いい加減に見過ごすと、すべて細かい意味もわからず、また多く思い違いがあっても、いつまでもその誤りに気づくことができないことがあるものだ。

三

解答

(1) 浴(びる)　(2) 認(める)　(3) 厳(しく)　(4) 約束　(5) 看病　(6) 賛否

四

解答

1、イ　2、多かった　3、ウ　4、視野の一画に常緑樹を入れ、一斉に咲き揃う直前の一本の大木全体を少し離れたところから見上げる（45字）（同意可）　5、a、清楚な美しさを見せてくれる　b、存在感を顕わにしている　c、淡い香りが一体となる（同意可）

6、（例）

人の話を聞いているとき、その意見の細かい部分をとらえたときと、意見全体をとらえたときでは、その印象が異なることがよくある。細かい部分では考え方が間違っているのではないかと思えることでも、全体を聞いてみるとその人の本当に言いたいことが理解でき、そういう考え方もあるのではないかと思えたりするのである。自分の話を相手が聞いているときにもそういうことはよくある。自分が言っていることの細かい部分で批判され、本当に言いたいことが伝わらないことがあったりすると悲しくなる。だから、私はものごとを理解しようとするとき、細かい部分にも注意しながら、全体としてとらえることを心がけたいと思っている。（291字）

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

解説

2、「今年は」「あちこちの梅をじっと眺めることが」「多かった」と区切られる。「今年は」は、この文の述語を修飾する。

3、筆者は「これまで梅の花にはあまり関心がなかった」が、「自分の庭に梅を植えてからは…まだかまだかと催促するような思いで」見るようになったと述べている。

4、「圧巻」は、最もすぐれた部分のこと。桜は「一斉に咲き揃う直前の…少し離れたところから見上げる」のが「一番よい」、それも「よく晴れた青空を背景にしていて…視野の一画に松かなにかの常緑樹があれば最高」としていることに着目する。

5、a、梅は近寄って見ると、「一つひとつの花が整った輪郭とともに目に入って、清楚な美しさを見せてくれる」と述べている。

b、「それに…細い枝々が、あたりに突きささるように鋭く真っ直ぐに伸びて、存在感を顕わにしている」と述べている。c、「淡い香りが花と一体と」なることを、「美の次元を一層深いものにしているように思われる」と述べている。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。